彩菜栽

2018年8月

タマネギの蒔きどきと上手な苗作り

タマネギはあまり早く蒔き過ぎると冬に入る前に大きく育ち過ぎ、低温に感応してとう立ちする場合が多く、失敗しがちです。適正な蒔きどきは早生種は9月上旬、中生種は9月15日前後、晩生種は9月20日頃です。

タマネギは土壌の酸性に弱い（最適pHは6.3～7.8）ので、苗床の予定地は早めに石灰を施し、20㎝ぐらいの深さによく耕しておきます。

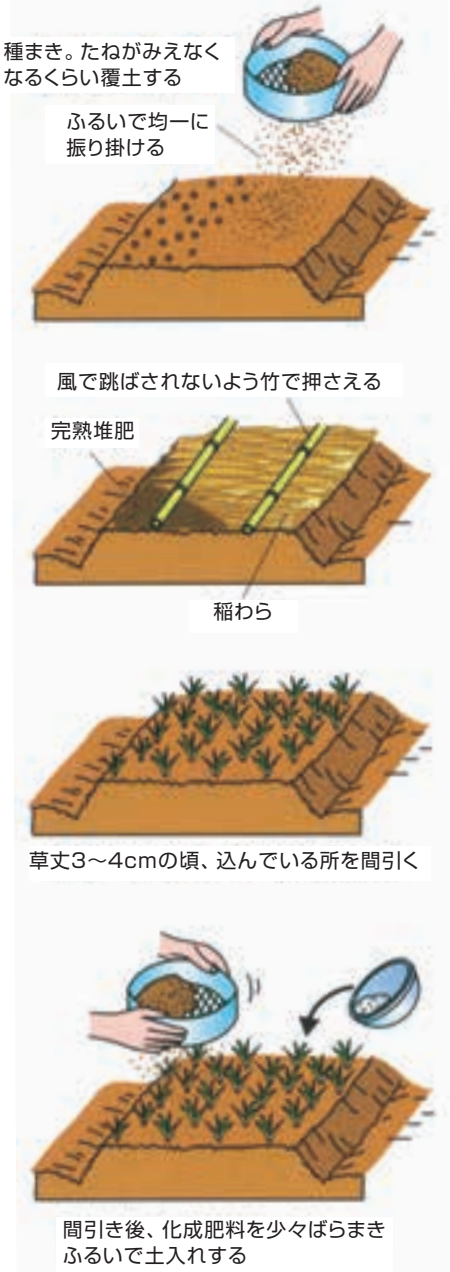
苗床は幅80～100㎝、高さ15～20㎝（低温値では幅を狭く、高さを高くする）とし、あらかじめ化成肥料を全面に蒔き、深さ15㎝ぐらいに耕し込んでおきます。

種まきは床面をきれいにならして、3.3平方m当たり40m1内外の種を均一にばらまきます。その上に草木灰を種が見えなくなる程度に掛け、さらにそれが見えなくなる程度にふるいで土を均一に掛け、板切れなどで軽く押し付け、鎮圧します。その後細かく砕いた完熟堆肥、またはもみ殻で土が見えなくなるくらいに覆います。そしてたっぷり灌水し、稲わらで全面を覆い、強い降雨や、強日光による乾燥を防ぎます。

通常6～7日で発芽しますから、全体に発芽し1～2㎝に伸びたら、被覆していた稲わらは取り除きます。乾いてきたら全面にたっぷりジョウロで灌水し、そろった発芽を促します。

草丈が3～4㎝に伸びた頃、密に生えたら間引き、1.5㎝ぐらいの間隔にします。間引きの後、少量の化成肥料を追肥し、ふるいで土を掛けて土入れします。

苗が7～8㎝の丈になった頃、前と同様に第2回の追肥をします。

この頃は秋雨が降り続くことが多く、葉の一部がぼんやりと黄化するべと病が発生しやすいです。この苗床で発生を許すと春先になって本畑で多発しやすいので、早い内に適応薬剤に展着剤を加えて散布し、完全に防除しておきます。

11月上～中旬になり苗の大きさが草丈20㎝内外、太さが5～6㎜ぐらいになったら畑に定植します。苗取りは、床が乾いていたら十分灌水し、根をできるだけ切らないよう、大きい株からできるだけそろえて引き抜きます。こうすれば本畑での早い活着は請け合いです。